

クラス

番号

氏名

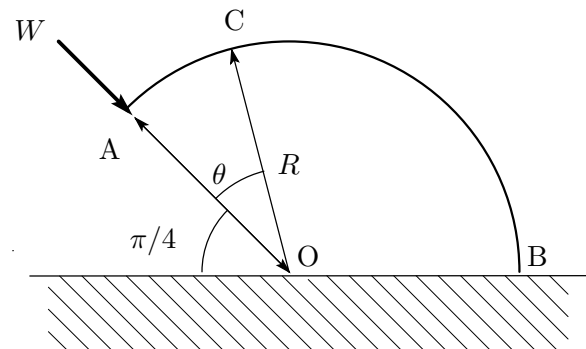
得点

注意：この用紙を表紙として，解答はレポート用紙を用いよ．裏面にも問題有．

下記の問において，いずれも各はりの断面は一樣で，ヤング率，断面 2 次モーメントはそれぞれ E, I とする．

問 1 図の曲がりはりについて以下の問いに答えよ．

1. 点 C のモーメント M を，角度 θ ，荷重 W ，半径 R を用いてあらわせ．
2. 点 A の荷重方向の変位をカスティリアーノの定理を用いて求めよ．



[解答例]

1. 図 1 のように点 A から角度 θ の点 C における曲げモーメントを考える．円弧 AB 部分の自由物体線図についてモーメントの釣り合いを考えると，点 C における曲げモーメント M は

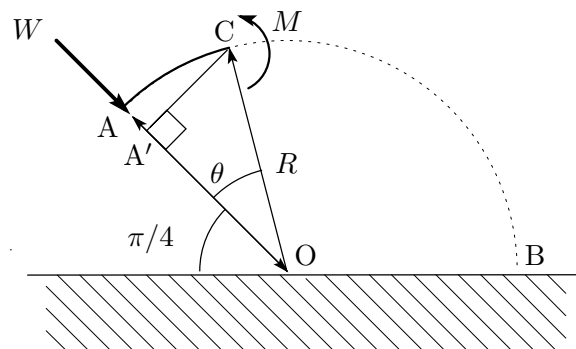


図 1: モーメントの釣りあい

$$M(\theta) = -W \times \overline{A'C} = -W \times \overline{OC} \times \sin \theta = -W R \sin \theta$$

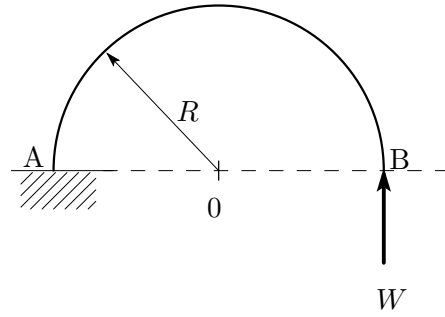
2. 点 A の荷重方向の変位を δ とすると，カスティリアーノの定理から

$$\delta = \frac{\partial U}{\partial W} = \frac{\partial}{\partial W} \left\{ \int_0^{\frac{3}{4}\pi} \frac{M^2}{2EI} R d\theta \right\}$$

$$\begin{aligned}
EI\delta &= \int_0^{\frac{3}{4}\pi} M \frac{\partial M}{\partial W} R d\theta \\
&= \int_0^{\frac{3}{4}\pi} WR \sin \theta \cdot R \sin \theta \cdot R d\theta \\
&= \int_0^{\frac{3}{4}\pi} WR^3 \sin^2 \theta d\theta = \frac{WR^3}{2} \int_0^{\frac{3}{4}\pi} (1 - \cos 2\theta) d\theta \\
&= \frac{WR^3}{2} \left[\theta - \frac{1}{2} \sin 2\theta \right]_0^{\frac{3}{4}\pi} = \frac{WR^3}{2} \left(\frac{3}{4}\pi + \frac{1}{2} \right) \\
\delta &= \frac{3\pi + 2}{8} \frac{WR^3}{EI}
\end{aligned}$$

問2 図のような集中荷重 W を受ける半円弧状のはり(半径 R)について考える. 以下の問に答えよ. ただし, ヤング率を E , 断面二次モーメントを I とする.

1. カスティリアーの定理を用いて点 B の垂直方向の変位量を求めよ.
2. カスティリアーの定理を用いて点 B の水平方向の変位量を求めよ.



[解答例]

1. 図2のように点 A から角度 θ の点 C における曲げモーメントを考える.

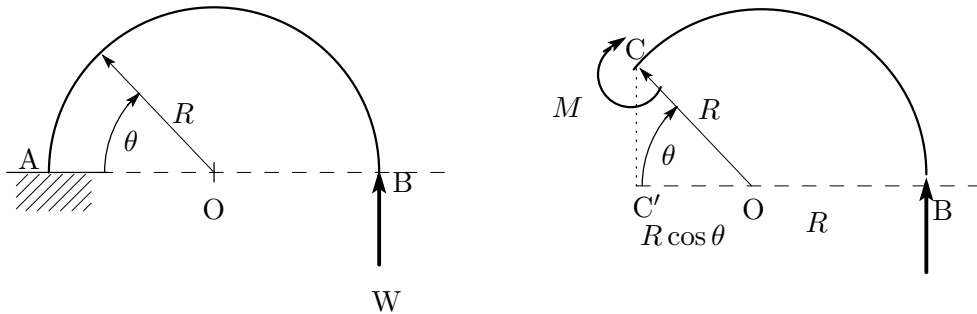


図 2: モーメントのつりあい

円弧 CB 部分の自由物体線図についてモーメントの釣り合いを考えると, 点 C における曲げモーメント M は

$$M(\theta) = W \times \overline{C'B} = W \times (\overline{C'O} + \overline{OB}) = WR(1 + \cos \theta)$$

と与えられる. カスティリアーの定理を適用すると, B 点の荷重 W 方向の変位 (垂直変位) δ_V は

$$\delta_V = \frac{\partial U}{\partial W} = \int_0^\pi \frac{M}{EI} \frac{\partial M}{\partial W} R d\theta, \quad \frac{\partial M}{\partial W} = R(1 + \cos \theta)$$

と与えられる. したがって以下の様に垂直変位が求められる.

$$\begin{aligned} EI \delta_V &= \int_0^\pi WR(1 + \cos \theta) \cdot R(1 + \cos \theta) R d\theta = WR^3 \int_0^\pi (1 + \cos \theta)^2 d\theta \\ &= WR^3 \int_0^\pi (1 + 2 \cos \theta + \cos^2 \theta) d\theta = WR^3 \int_0^\pi \left\{ 1 + 2 \cos \theta + \frac{1 + \cos 2\theta}{2} \right\} d\theta \\ &= WR^3 \int_0^\pi \left(\frac{3}{2} + 2 \cos \theta + \frac{1}{2} \cos 2\theta \right) d\theta \\ &= WR^3 \left[\frac{3}{2}\theta + 2 \sin \theta + \frac{1}{4} \sin 2\theta \right]_0^\pi = \frac{3\pi}{2} WR^3 \\ \delta_V &= \frac{3\pi}{2} \frac{WR^3}{EI} \end{aligned}$$

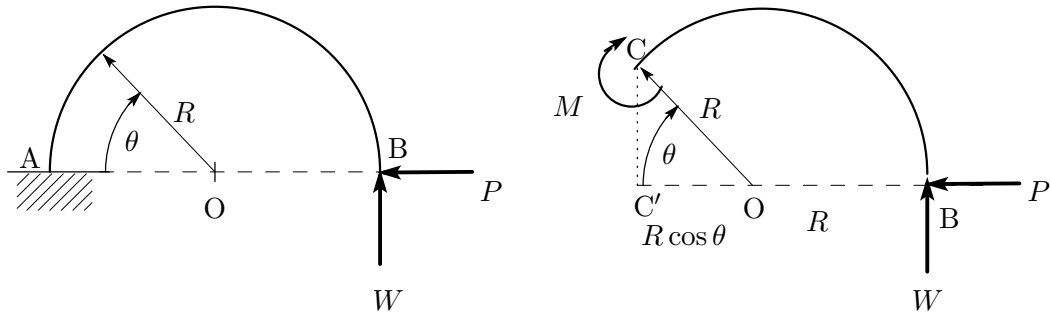


図 3: 仮想荷重を加えた場合のモーメントのつりあい

2. 図3のように、水平方向の荷重 P が B 点に加わっていると仮定する。

前問と同様にモーメントの釣り合いを考えると、点 C における曲げモーメント M は、荷重 W によるモーメントに加えて、仮想荷重 P によるモーメントを考慮して

$$M(\theta) = WR(1 + \cos \theta) - P \times \overline{CC'} = WR(1 + \cos \theta) - PR \sin \theta$$

と与えられる。カスティリアーノの定理を適用すると、B 点の仮想荷重 P 方向の変位（水平変位） δ_H は

$$\delta_H = \frac{\partial U}{\partial P} = \int_0^\pi \frac{M}{EI} \frac{\partial M}{\partial P} R d\theta, \quad \frac{\partial M}{\partial P} = -R \sin \theta$$

と与えられる。したがって以下の様に荷重 P による水平変位が求められる。

$$\begin{aligned} EI \delta_H &= \int_0^\pi \{WR(1 + \cos \theta) - PR \sin \theta\} \cdot R(-R \sin \theta) R d\theta \\ &= R^3 \int_0^\pi \{-WP(1 + \cos \theta) \sin \theta + P \sin^2 \theta\} d\theta \end{aligned}$$

$P = 0$ の状態を考えれば、実際の水平方向変位は

$$\begin{aligned} EI \delta_H|_{P=0} &= -WR^3 \int_0^\pi (1 + \cos \theta) \sin \theta d\theta = WR^3 \int_0^\pi (\sin \theta + \sin \theta \cos \theta) d\theta \\ &= -WR^3 \int_0^\pi \left(\sin \theta + \frac{1}{2} \sin 2\theta \right) d\theta \\ &= -WR^3 \left[-\cos \theta - \frac{1}{4} \cos 2\theta \right]_0^\pi = -2WR^3 \\ \delta_H &= -\frac{2WR^3}{EI} \end{aligned}$$

と求められる。ここで符号が-であるのは、実際の変位が、仮定した荷重の方向とは逆であることを示している（実際には、B が円弧の外側になるような変形となる）。

別解 図4のように点 B から角度 θ の点 C における曲げモーメント M を考える。また水平方向の荷重 Q が B 点に図のように加わっていると仮定する（前問とは角度の取り方、仮想荷重の方向が異なることに注意）。

円弧 BC 部分についてモーメントの釣り合いを考えると、点 C における曲げモーメント M は、荷重 W によるモーメントと仮想荷重 Q によるモーメントを考慮して

$$M(\theta) = W \times \overline{BC'} + Q \times \overline{CC'} = W \times (\overline{OB} - \overline{OC'}) + Q \times \overline{CC'} = WR(1 - \cos \theta) + QR \sin \theta$$

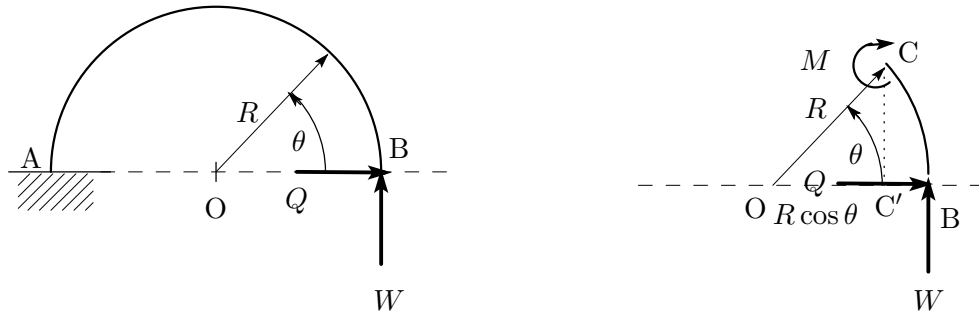


図 4: 別解

となる .

したがってこの円弧全体に蓄えられるひずみエネルギー U は、以下の様になる .

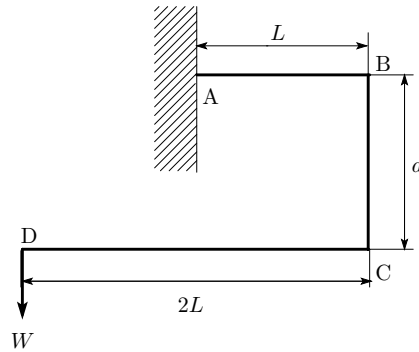
$$\begin{aligned}
 U &= \int_0^\pi \frac{M^2}{2EI} R d\theta \\
 2EI U &= \int_0^\pi \{WR(1 - \cos \theta) + QR \sin \theta\}^2 R d\theta = R^3 \int_0^\pi \{W(1 - \cos \theta) + Q \sin \theta\}^2 d\theta \\
 &= R^3 \int_0^\pi \{W^2(1 - \cos \theta)^2 + 2QW(1 - \cos \theta) \sin \theta + Q^2 \sin^2 \theta\} d\theta \\
 &= R^3 \int_0^\pi \left\{ W^2 \left(\frac{3}{2} - 2 \cos \theta + \frac{1}{2} \cos 2\theta \right) + QW(2 \sin \theta - \sin 2\theta) + \frac{Q^2}{2}(1 - \cos 2\theta) \right\} d\theta \\
 &= R^3 \left[W^2 \left(\frac{3}{2} \theta - 2 \sin \theta + \frac{1}{4} \sin 2\theta \right) + QW \left(-2 \cos \theta + \frac{1}{2} \cos 2\theta \right) + \frac{Q^2}{2} \left(\theta - \frac{1}{2} \sin 2\theta \right) \right]_0^\pi \\
 &= R^3 \left(\frac{3}{2} \pi W^2 + 4WQ + \frac{1}{2} \pi Q^2 \right) \\
 U &= \frac{R^3}{2EI} \left(\frac{3}{2} \pi W^2 + 4WQ + \frac{1}{2} \pi Q^2 \right)
 \end{aligned}$$

カスティリアーノの定理を適用すると、B 点の荷重 W 方向変位 (垂直変位) δ_V 、仮想荷重 Q 方向の変位 (水平変位) δ_H はそれぞれ、 Q を 0 として

$$\begin{aligned}
 \delta_V &= \frac{\partial U}{\partial W} \Big|_{Q=0} = \frac{R^3}{2EI} (3\pi W + 4Q) \Big|_{Q=0} = \frac{3\pi W R^3}{2EI} \\
 \delta_H &= \frac{\partial U}{\partial Q} \Big|_{Q=0} = \frac{R^3}{2EI} (4W + \pi Q) \Big|_{Q=0} = \frac{2WR^3}{EI}
 \end{aligned}$$

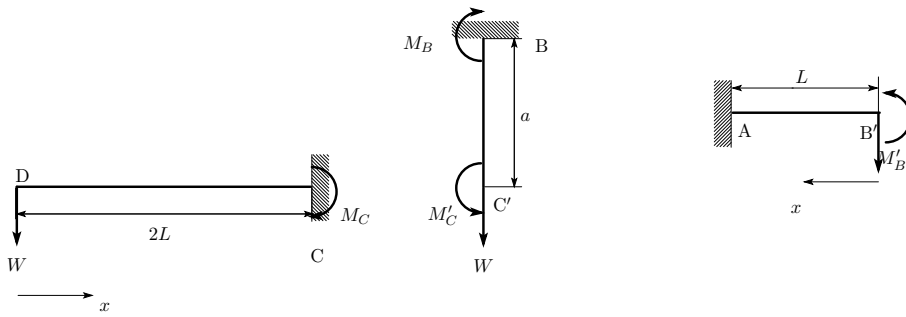
と求めることができる .

問3 図のはりにおいて、D点の垂直方向の変位 δ_D と、B点の垂直方向変位 δ_B をカスティリアーノの定理を用いてそれぞれ求めよ。ただし軸力による変形は無視できるとする。



[解答例]

図の様に、はりの3つの部分に分けて考える。



DC間について考える。

DC間の曲げモーメントの分布 M_1 は

$$M_1 = -Wx$$

したがってこの区間の曲げによるひずみエネルギー U_1 は

$$U_1 = \int_0^{2L} \frac{M_1^2}{2EI} dx$$

C点の反モーメント M_C は

$$M_C = W \cdot 2L = 2WL$$

C'B間について考える。点C'に働くモーメント M'_C の大きさは M_C に等しく、荷重 W は曲げには寄与しないから、この区間の曲げモーメントの分布 M_2 は

$$M_2 = M'_C = 2WL$$

と一定の曲げモーメントとなる。この区間の曲げによるひずみエネルギー U_2 は

$$U_2 = \int_0^a \frac{M_2^2}{2EI} dx$$

点Bにおける反モーメント M_B は

$$M_B = M'_C = 2WL$$

AB' 間について考える．点 B' に働くモーメント M'_B の大きさは M_B に等しく，かつ荷重 W が鉛直方向に働くのでこの区間の曲げモーメントの分布 M_3 は，図の様に x 軸をとると

$$M_3 = -Wx + M'_B = -Wx + 2WL$$

と表される．この区間の曲げによるひずみエネルギー U_3 は

$$U_3 = \int_0^L \frac{M_3^2}{2EI} dx$$

したがってはり全体に蓄えられるひずみエネルギー U は

$$U = U_1 + U_2 + U_3$$

となり，点 D の垂直方向変位 δ_D はカスティリアーノの定理を用いて

$$\begin{aligned} \delta_D = \frac{\partial U}{\partial W} &= \frac{\partial U_1}{\partial W} + \frac{\partial U_2}{\partial W} + \frac{\partial U_3}{\partial W} \\ &= \frac{\partial}{\partial W} \int_0^{2L} \frac{M_1^2}{2EI} dx + \frac{\partial}{\partial W} \int_0^a \frac{M_2^2}{2EI} dx + \frac{\partial}{\partial W} \int_0^L \frac{M_3^2}{2EI} dx \\ &= \frac{1}{EI} \left(\int_0^{2L} M_1 \frac{\partial M_1}{\partial W} dx + \int_0^a M_2 \frac{\partial M_2}{\partial W} dx + \int_0^L M_3 \frac{\partial M_3}{\partial W} dx \right) \\ EI \delta_D &= \int_0^{2L} (-Wx)(-x) dx + \int_0^a 2WL \cdot 2L dx + \int_0^L (-Wx + 2WL)(-x + 2L) dx \\ &= \int_0^{2L} Wx^2 dx + 4WL^2 \int_0^a dx + \int_0^L W(x - 2L)^2 dx \\ &= \left[\frac{W}{3} x^3 \right]_0^{2L} + 4WL^2 a + \left[\frac{W}{3} (x - 2L)^3 \right]_0^L \\ &= \frac{8}{3} WL^3 + 4WL^2 a + \frac{7}{3} WL^3 = 5WL^3 + 4WL^2 a \\ \delta_D &= \frac{WL^2}{EI} (5L + 4a) \end{aligned}$$

点 B の垂直方向変位 δ_B を求めるため，点 B に図の様に垂直方向の荷重 P が加わると仮定する．これによって曲げモーメントが変化するのは AB 間のみであり，この区間の曲げモーメントの分布 M_3 は，図の様に x 軸をとると

$$M_3 = -(W + P)x + 2WL$$

となる．

カスティリアーノの定理を用いて δ_B は

$$\delta_B = \frac{\partial U}{\partial P} = \frac{\partial U_1}{\partial P} + \frac{\partial U_2}{\partial P} + \frac{\partial U_3}{\partial P}$$

と求められるが，CD 間，BC 間のひずみエネルギーは荷重 P には依存しないので，

$$\delta_B = \frac{\partial U_3}{\partial P}$$

となる．したがって

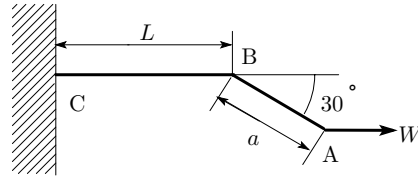
$$\begin{aligned}\delta_B &= \frac{\partial U_3}{\partial P} = \int_0^L \frac{M_3}{EI} \frac{\partial M_3}{\partial P} dx \\ EI \delta_B &= \int_0^L \{-(W+P)x + 2WL\} (-x) dx \\ &= \int_0^L \{(W+P)x^2 + 2WLx\} dx \\ &= (W+P) \left[\frac{x^3}{3} \right]_0^L - WL \left[x^2 \right]_0^L \\ &= (W+P) \frac{L^3}{3} - WL^3 = -\frac{2}{3}WL^3 + \frac{1}{3}PL^3\end{aligned}$$

となり， P を0とすると

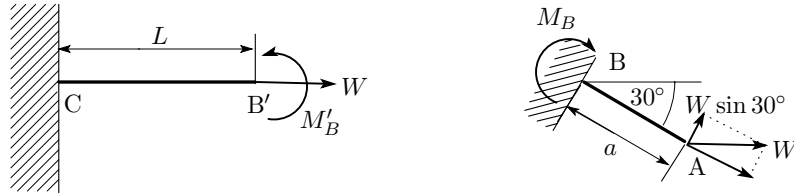
$$\delta_B = -\frac{2}{3} \frac{WL^3}{EI}$$

を得る．

問4 図のはりにおいて、A点の水平方向の変位 δ をカスティリアーノの定理を用いて求めよ。ただし軸力による変形は無視できるとする。



[解答例]

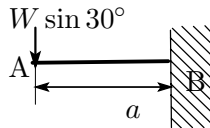


上図のように、2つの部分に分けて考える。AB間について、軸力 $W \cos 30^\circ$ は無視できるから、集中荷重 $W \sin 30^\circ$ を受ける片持ちはりと考えられる。また点Bの反モーメント M_B は

$$M_B = W \sin 30^\circ \cdot a$$

となる。

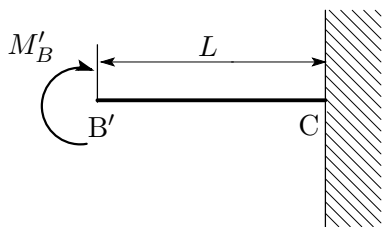
BC間についても軸力を無視すると、モーメント M'_B が加わる片持ちはりと考えることができる。モーメント $M'_B = M_B$ であるから、結局左図(1)(2)のような二つのはりに蓄えられるひずみエネルギーを求めてカスティリアーノの定理を適用すればよい。(1)の曲げモーメントの分布は



(1)

$$M_1(x) = -W \sin 30^\circ \cdot x$$

また(2)の曲げモーメントの分布は



(2)

$$M_2(x) = M'_B = W \sin 30^\circ \cdot a$$

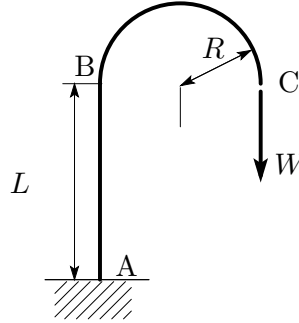
であるから、カスティリアーノの定理を用いて点Aの水平方向変位 δ_H は以下のように求められる。

$$\begin{aligned} \delta_H &= \frac{\partial U}{\partial W} = \frac{\partial U_1}{\partial W} + \frac{\partial U_2}{\partial W} \\ &= \int_0^a \frac{M_1}{EI} \frac{\partial M_1}{\partial W} dx + \int_0^L \frac{M_2}{EI} \frac{\partial M_2}{\partial W} dx \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} EI\delta_H &= \int_0^a (-W \sin 30^\circ \cdot x)(-\sin 30^\circ \cdot x) dx + \int_0^L (W \sin 30^\circ \cdot a) \cdot (\sin 30^\circ \cdot a) dx \\ &= W \sin^2 30^\circ \int_0^a x^2 dx + W \sin^2 30^\circ \cdot a^2 \int_0^L dx \end{aligned}$$

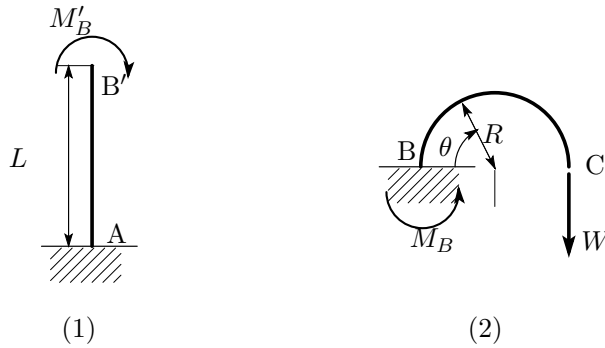
$$\begin{aligned} &= W \sin^2 30^\circ \left[\frac{1}{3} x^3 \right]_0^a + W \sin^2 30^\circ \cdot a^2 L \\ &= W \sin^2 30^\circ \left(\frac{1}{3} a^3 + a^2 L \right) = W (a \sin 30^\circ)^2 \left(\frac{1}{3} a + L \right) \\ \delta_H &= \frac{W a^2}{4EI} \left(\frac{1}{3} a + L \right) \end{aligned}$$

問5 図のはりにおいて、C点の荷重方向の変位 δ をカスティリアーノの定理を用いて求めよ。ただし軸力による変形は無視できるとする。



[解答例]

下図のように2つの部分に分けて考える。



BC間のモーメントの分布は、図の様に角 θ をとると($0 < \theta < \pi$)、問2と同様に考えて

$$M_1(\theta) = -WR(1 + \cos \theta)$$

となる。

またAB間については、点Bにモーメント M'_B が加わるだけなので

$$M_2(x) = M'_B = -2WR$$

したがって、C点の荷重方向変位 δ はカスティリアーノの定理を用いて

$$\begin{aligned} \delta &= \frac{\partial U}{\partial W} = \int_0^\pi \frac{M_1}{EI} \frac{\partial M_1}{\partial W} R d\theta + \int_0^L \frac{M_2}{EI} \frac{\partial M_2}{\partial W} dx \\ EI\delta &= \int_0^\pi WR^2(1 + \cos \theta)^2 R d\theta + \int_0^L (-2WR)(-2R) dx \\ &= WR^3 \int_0^\pi (1 + \cos \theta)^2 d\theta + 4WR^2 \int_0^L dx \\ &= \frac{3\pi}{2} WR^3 + 4WR^2 L \\ \delta &= \frac{WR^2}{EI} \left(\frac{3\pi R}{2} + 4L \right) \end{aligned}$$